



常総市が管理する公共施設について

施設マネジメント係を新設し、取り組みを進めていく

教育委員会教育部長

議員
急激に進む高齢化と少子化の中、今の時代に合ったまちづくりをしていくことが一番重要な課題である。常総市の公共施設の老朽化に伴う見直しについて、財政面も含めて今後どのように考えて整理していくのか、市の考え方を問う。

総務部長

市全体で方針を決めていく必要性を認識し、今年4月に全庁横断的な検討及び判断を行うために、資産管理課を新設し、施設マネジメント係を設置した。さらに、庁内の意思決定機関として、特別職と関係部長による公共施設等運用戦略会議を組織し、全庁一丸となって取り組みを進めていく。

議員

石下体育館について、老朽化や耐震基準の問題により、現在使用を中止しているが、跡地の利用をどのように考えているか。

□ 設 問 問 JOSOSHIGIKAYORI JOSOSHIGIKAYORI JOSOSHIGIKAYORI JOSOSHIGIKAYORI □ 設 問 問



豊岡地域の下水道計画について問う

今年度中に国道354号線より南側を計画化する

議員

公共下水道の今後について尋ねる。私は、公共下水道を初当選以来ライフワークとして取り組んできた。昭和54年頃は「毎日風呂に入れない」「下水道を流すところがない」等の苦情があつた。個人的に合併処理槽をいち早く取り入れ、後の補助金制度に取り付けた。

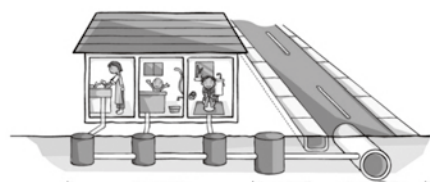
都市建設部長

豊岡地区市街化区域は、公共下水道の計画地だが、ようやく今年になって一部導入されてきたものの、豊岡市街地の全部ではない。今後の見通しについて問う。

議員

鬼怒川西部における公共下水道の整備は、平成25年度の事業計画変更時に坂手地区の一部及び豊岡地区のきぬ住宅団地やグリーンヒル団地を事業認可区域として追加し実施中である。

きぬ住宅団地及びグリーンヒル団地内の面整備工事については、住民の皆様から強い要望も



あり、工事着手が一年早まっている。残る豊岡地区の市街化区域については、現在の公共下水道の整備面積が84%進捗しており、今年度354号線より南側の市街化区域を事業認可し、区域拡大をしていく計画である。

議員

80%を超える進捗率になったとは、大変な努力をされたと思う。選挙中に「合併処理槽でやってきたが機械が古くなり取り替えない。いつ公共下水が来るのか」という相談を何度も受けた。引き続き、待っている市民の気持ちになって頑張りたい。